

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 : サーフボードリムーバーM
会社名 : 株式会社ビー・エヌ
住所 : 〒536-0014 大阪市城東区鳴野西 2-7-6
電話番号 : 06-6962-2781
FAX番号 : 06-6963-3765
緊急連絡先電話番号 : 06-6962-2781
メールアドレス : info@b-n.co.jp
推奨用途及び使用上の制限 : 洗浄剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない	
特定標的臓器・全身毒性（単回曝露）	分類できない	
特定標的臓器・全身毒性（反復曝露）	分類できない	
誤えん有害性	区分1	
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 引火性液体
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

容器を密閉しておくこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。— 禁煙。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や火花による引火を防止すること。

個人用保護具や換気装置を使用し、曝露を避けること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

容器を接地すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

火花を発生しない工具を使用すること。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

- 火災の場合 : 適切な消火剤を使用すること
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。吐かせないこと。
- 眼に入った場合 : 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹸で洗うこと。
- 皮膚（又は毛髪）
に付着した場合 : 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
- 曝露又はその懸念がある場合
- 眼の刺激が持続する場合
- 気分が悪い時 : 医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一物質又は混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : イソパラフィン系炭化水素系溶剤

成分名	含有量 Wt%	CAS No.	化審法番号	労働安全衛生法
Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	90	64742-48-9	非該当	非該当
2, 2, 4, 6, 6-ペンタメチルヘプタン	8.5	13475-82-6	(2)-10	非該当
2, 2, 4, 4, 6-ペンタメチルヘプタン	1.3	62199-62-6	(2)-10	非該当

4. 応急処置

- 目に入った場合 : 直ちに清浄な水で最低15分間目を洗浄し、眼科医の手当てをうける。
コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗う。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類・靴を速やかに脱ぎ、製品に触れた部位を多量の水で洗い流す。
石鹸を使って良く洗浄する。外観に変化が見られたり痛みが続く場合には、
医師の診断を受ける。
- 吸入した場合 : 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には空気の新鮮な場所に
移動させ、安静・保温に努め速やかに医師の手当てを受ける。
無理して吐かせないこと。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口を洗わせ直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の処置

- 消火剤 : 噴霧水、炭酸ガス、ドライケミカル、泡消火剤
- 特定の危険有害性 : 極めて燃え易い。熱、火花、火炎で容易に発火する。加熱により容器が爆発する
おそれがある。火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生する
おそれがある。
引火性液体及び蒸気。
- 特定の消火方法 : 消火作業は可能な限り風上から行う。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
初期の火災には、粉末・二酸化炭素・乾燥砂等を用いて消火する。
大規模火災には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。
周辺の火災時は、速やかに容器を安全な場所に移動する。
注水は周囲への延焼防止、又は容器の冷却とする。大災害・爆発等の恐れのある時は、直ちに付近の住民を避難させる。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の処置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 作業の際は保護具を着用し蒸気の吸入や皮膚への接触を防ぐ。
風下で作業しない。屋内の場合は、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- 環境に対する注意事項
回収、中和 : 流失した製品、洗いが河川等に排出されないように注意する。
- 少量の場合 : 乾燥砂・ウエス等に吸収させ、密閉できる容器に回収する。
- 多量の場合 : 盛土で囲い流出を防止し、安全な場所に導き乾燥砂・土等に吸収させる。
下水道・河川に流入させない処置を講じる。着火源を近づけない。
着火した場合に備えて消火機材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 火気・スパーク・高温物等の着火源との接近又はまたは過熱を避けること。
換気の良い場所で作業し必要な場合は、局所排気装置を設ける。
静電気対策の為に、装置・機器等の接地を確実にすると共に、作業衣作業靴は
導電性の物を使用する。電気機器類は防爆構造のものを使用する。

注意事項 : 適切な保護具（保護マスク・保護眼鏡・保護手袋等）を着用する。
 容器から出し入れする時はこぼれない様にし、その都度密閉する。
 : 取扱った後は手等を十分に洗浄する。
 食品への付着、接触、混入のおそれのある用途には使用しない。

保管

保管条件 : 容器は直射日光や火気、熱源を避け、冷暗所に密閉して保管する。

8. 曝露防止措置

品名	管理濃度	許容濃度	ACGIH
Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	未設定	未設定	未設定
2, 2, 4, 6-ペンタメチルヘプタン	未設定	未設定	未設定
2, 2, 4, 4, 6-ペンタメチルヘプタン	未設定	未設定	未設定

*日本産業衛生学会勧告値

設備対策 : 屋内作業場で使用の場合は、発生源の密閉化または局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具 : 有機ガス用防毒マスク・送気マスク
 手の保護具 : ゴム手袋
 目の保護具 : 保護眼鏡
 皮膚及び身体の保護具 : 保護服、保護靴

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状 : 液体
 色 : 無色
 臭い : マイルドな石油/溶剤臭
 pH : データなし
 比重 : 0.777

沸点、蒸気圧、融点、引火点、発火点、爆発範囲は製品としてのデータがないため成分要素の値を示す。

項目	Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	2, 2, 4, 6, 6-ペンタメチルヘプタン
沸点	170~200℃	179~182℃
蒸気圧	0.1~0.3kPa	101kPa(180℃)
融点	データなし	データなし
引火点	50℃	43.8℃
発火点	データなし	485.6℃
爆発限界	0.7~6.0vol%	1.0~6.0vol%

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の手扱いにおいて安定。
 危険有害な分解生成物 : 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

11. 有害性情報

製品としてのデータはないので、含有各成分のデータを記載する。

- 急性毒性 :
- 経口 (区分外)
: ラット LD50 > 15000mg/kg (Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 吸入 (蒸気) (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 経皮 (区分外)
: ウサギ LD50 > 3160mg/kg (Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 皮膚腐食性・刺激性 (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性 (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(眼に短い時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある。この物質が眼に入った場合は、
)
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 呼吸器感作性 (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 皮膚感作性 (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 生殖細胞変異原性 (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 発がん性 (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 生殖毒性 (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回曝露) (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 特定標的臓器・全身毒性 (反復曝露) (分類できない)
: データ不足により分類できない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)
- 誤えん有害性 (区分1)
: 40°Cの動粘性率が 20.5mm²/s 以下の炭化水素に該当するため区分1とした。

1 2. 環境影響情報

- 水性環境急性有害性 (区分外)
: LC50 = 2200 mg/l 96 hr Pimephales promelas (IUCLID)
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)

- 水性環境慢性有害性 (区分外)
: 生態蓄積の可能性を有するが、代謝あるいは物理的特性により、
生体内濃度を低下させたり、生体利用効率を制限させたりすることもある。

- オゾン層への有害性 (分類できない)
: 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
(Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy)

1 3. 廃棄上の注意

廃液、容器等の廃棄物は、都道府県の認可を受けた産業廃棄物処理業者に処理委託する。

下水道等、生活排水溝へは流さないこと。

排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び該当法規にしたがって処理を行うか処理を委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規則
 : 国連番号 3 2 9 5
 : 国連品名 炭化水素類 (液体)
 : 国連分類 クラス (引火性液体)
 : 容器等級 III

国内規制

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法に定められている運送方法に従う。

海上輸送 : 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送 : 航空法に定められている運送方法に従う。

注意事項

運搬に際しては容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷がない様に積込み、荷崩れ防止を確実に
 行う。漏出時の処置は、取り扱い及び保管上の注意に基づく。

1 5. 適用法令

消防法 : 危険物第 4 類 第二石油類 非水溶性液体 (指定数量 1 0 0 0 L)

化学物質管理促進法 : 非該当

労働安全衛生法 : 施行令別表第 1 第 4 号危険物・引火性の物
 施行令別表第 6 の 2 有機溶剤中毒予防規則第 1 条第 1 項第 4 号
 (第 2 種有機溶剤)
 法第 5 7 条の 2 施行令第 1 8 条の 2 別表第 9
 名称等を表示・通知すべき対象物質

毒物及び劇物取締り法 : 非該当

危険物船舶運送及び貯蔵規則 : 引火性液体類、容器等級 III

航空法 : 施行規則第 194 条危険物引火性液体

海洋汚染防止法 : ばら積み運送 有害液体物質 類物質

1 6. その他の情報

引用文献等 : 株式会社スタンダード石油大阪発売所 安全データシート
 丸善石油化学株式会社 安全データシート

記載内容の取り扱い : ここに記載された内容は、現時点で入手できる情報・データに基づいて
 作成してありますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証もなすもの
 ではありません。また、記載事項は通常の手続きを対象としたもので特別な取
 り扱いをする場合には用途用法に適した安全対策を実施のうえお取り扱いくだ
 さい。